

てらこや埋文

2007年
夏



やまだい

山大の『お宝』大公開！！

大学には貴重な学術資料が蓄積されています

『大学は宝の山！』といきなり書くと、皆さんは『、なにごと！？』と思われるかもしれませんね。少し冷静になって事情説明をしましょう。

山口大学は、人文・教育・経済・理・医・工・農の7学部と、人文学・教育学・経済学・医学系・理工学・農学・東アジア・技術経営・連合獣医学・連合農学の10研究科で構成されている総合大学です。当然、各施設には教育・研究のために必要な様々な学術資料（文書や標本、各種の分析データなどなど）が保管され、活用されています。資料の質や量を考えると（自画自賛するようなので小声で言いますが、「学内に配置されている『人材』も含めて…」）、大学自体が一つの博物館と言っても良いかもしれません。

ただし、これらの資料は市民の皆さまがいつでも気軽に見学・利用できるという訳ではありません。何せ手に触れることさえ出来ないような貴重資料はその保管にも特殊な環境が必要ですし、何しろ『大学』ですから学生や教職員の研究に活用されることを第一に考えなくてはならないからです。ごめんなさいね…。

埋蔵文化財資料館はひと味違う！

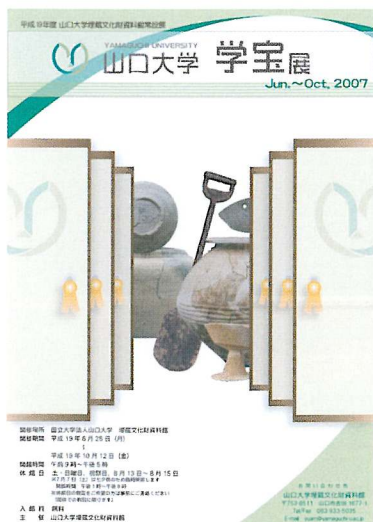
埋蔵文化財資料館にも、貴重な学術資料が数多く収蔵されています。当館は学内の遺跡の発掘調査を業務としているため、出土した土器・石器などを所蔵しているのは勿論ですが、当館設立前に山口大学が主体となって発掘調査をおこなった県内主要遺跡の出土品も多数所蔵しています。私たちは、日々これらの資料を調査・研究しているのですが…この先が大学内の他施設とちよつと違う！

私たちは『文化財は人類共有の財産』という信念のもと、これらの資料を学内のみならず市民の皆さまにも活用していただけるよう、館内での展示、インターネット上での公開、市民講座、調査報告書や広報誌の発行など、考えられる限りのさまざまな取り組みをしています。

大学のお宝＝「学宝」

今年度の常設展示では、資料館が『これぞ！』と思う貴重かつユニークな考古資料総数72点を『学宝』と勝手に認定し（こういうものは言ったもの勝ちです…）、大公開します。全てが一見の価値あるものです。是非お気軽に足をお運び下さい！

（横山成己）



山口大学埋蔵文化財資料館 平成19年度常設展

山口大学 学宝展

開催場所 国立大学法人山口大学埋蔵文化財資料館
 開催期間 平成19年6月25日（月）～平成19年10月12日（金）
 開館時間 午前9時～午後5時
 休館日 土・日曜日、祝祭日、8月13日～8月15日
 ※7月7日（土）は七夕祭（山口大学寮祭）のため臨時開館します。
 ※休館日に入館ご希望の方は、事前にご連絡ください。
 団体のお客様に限り対応いたします。

入館料 無料



火災にあった竪穴住居跡

遺跡保存公園第13号竪穴住居跡

第1学生食堂（ボーノ）南西にある遺跡保存公園では、発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡が21棟みつかっており、遺跡の上に土盛りをして保存しています。また、このうち5棟の竪穴住居跡をカラータイルで表示しています。これら5棟の竪穴住居跡のほぼ中央に位置するのが今回紹介する第13号竪穴住居跡です。

どのような住居だったの？

この竪穴住居跡は弥生時代終末から古墳時代初頭（紀元3世紀後半～4世紀初め）の住居跡です。家の平面は方形で、東西辺約7.6m、南北辺約7.1m、床面積が約54㎡で、大人10人は優に入ることのできる広さです。この住居は屋根が焼け落ちて炭化した状態で検出されました。写真中央に見えるのは桁（けた）と呼ばれる部材です。なぜ火災にあったのかは不明ですが、この状況から、復元模式図にあるような切妻屋根を持った竪穴住居であったと推測されており、当時の住居構造を知ることができる大変貴重な資料です。

なお、この住居内には壁に沿って床の周囲が1段高く、掘り残された部分があります。ここは道具類を置いたり、現在のベッドのような使われかたをしていたのかもしれませんが。この高い部分は東・南両辺の中央部で途切れており、東辺には壁面と床面が焼けて炭のつまった穴がみつかったことから、東辺には炊事を行った炉、南辺には出入口があったと推測されています。

現在、遺跡保存公園ではこの住居跡を床を黄土色、ベッド状遺構を灰色、柱穴と溝を茶色、炉を赤色のタイルで表示し、発掘調査時の写真を添えた説明版を設置しています。ボーノで食事をされる際、是非一度ご見学ください！

（田畑直彦）



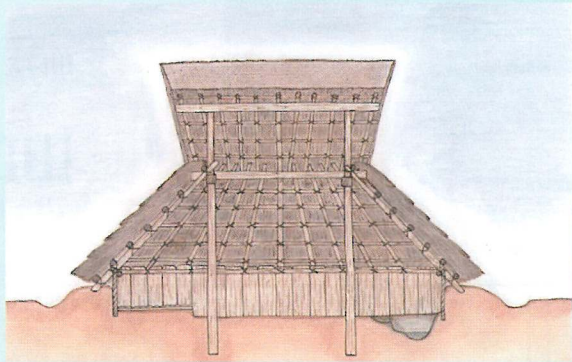
第13号竪穴住居跡遠景
1967年（昭和42）調査（北から）



平面復元された第13号竪穴住居跡



第13号竪穴住居跡全景
1984年（昭和59）調査（北西から）



第13号竪穴住居跡復元模式図
（宮本長二郎氏復元）



お食事何処まいぶん vol.1

今年度、埋蔵文化財資料館では公開授業として古代米（赤米）を育てています。そこでこのコーナーでは、昔の人々が実際に用いた道具をつかった古代米のおにぎりづくりをご紹介します。

材料をそろえよう！



古代米（赤米）

先生！古代米づくりから始めなくてははいけないんですか？

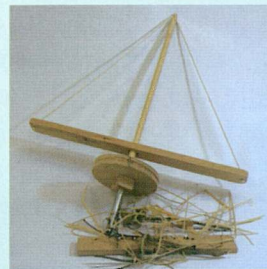
大丈夫！最近は健康食ブームだから赤米・黒米などが比較的簡単に入手できるよ！



弥生土器（レプリカ）

先生！家には弥生土器がありませんが？

野焼き用の陶土を買って自分でつくってみよう！野焼きをする時は火の扱いに注意！！



火おこし道具

先生！この道具は何ですか？

これは「舞いざり式発火具」です。ライターやマッチを使わない火起こし方法は他にも色々あるから調べてみてね！！



みんな知っちゃる？ おにぎり豆知識 その1

現在、石川県中能登町の杉谷チャノバタケ遺跡出土の「おにぎり」が日本最古のものとして知られています。このおにぎりは、一辺が8cm程度の二等辺三角形。正確にはモチ米をチマキ状にしたものだそうですが、親しみを込めて「おにぎり」と呼ばれています。今からおおよそ2000年前、弥生時代中期のものです。

(乃美友香)



喫茶まいぶん Vol.1

みなさんは遺跡をゆっくりと散策されたことはありますか。古人の技や知恵、そして、精神に触れることは、とても深みのある一時となるのではないのでしょうか。ここでは、発掘調査の後に史跡として保存整備された、山口県内の遺跡公園を紹介します。今回紹介させていただくのは、昭和57年に国指定史跡となった、山口市に所在する朝田墳墓群です。

国指定史跡 朝田墳墓群

朝田墳墓群は、山口盆地南西部の金山から伸びる丘陵上に広がっており、その一部が現在の国道9号線敷設に伴って発掘調査されました。その結果、弥生～古墳時代をメインに、中世までの墳墓遺構を中心とした遺跡であることがわかりました。その内、第I地区が遺跡公園として保存整備されました。（既往の調査区と保存地区の位置は右の写真を参照）



史跡 朝田墳墓群と周辺の景観
(写真：山口市教育委員会提供)



復元された遺構



朝田墳墓群の既往の調査区と保存地区
(写真：山口県教育委員会提供に加筆)

当遺跡公園は、山口市朝田字赤岸22番の3～吉敷上南谷401番にあり、山口県立維新百年記念公園から入れます。維新公園内の弓道場の脇道を西に入ると、歩いて2分程で「史跡 朝田墳墓群」の標識が見つかります。真下には国道が通っていますが、公園内ではとてもゆったりとした時の流れを感じることができます。発掘された状態をそのままに再現してあるので、悠久の精神に触れてみてはいかがでしょうか。（藤野好博）

山口県内の博物館紹介 vol.9

山陽小野田市歴史民俗資料館

山陽小野田市歴史民俗資料館は、市域を南流する有帆川河口の右岸に位置しています。資料館の周辺には、市民運動場や体育館、市立図書館などがあり、市民の文化活動の拠点となっています。昭和57年に設立された館ですが、県内の自治体が運営する「歴史民俗資料館」としては現在でも屈指の規模を誇ります。ここ数年は年間平均3500人の利用があるそうです。

館内は1階と2階が展示室として無料開放されています。1階には民俗資料や近世以降の小野田の窯業（「小野田の皿山」）関連資料、小野田と石炭との関わりについての展示解説などが設けられています。2階は旧石器時代から古墳時代までの考古資料を中心とした「古代の小野田」コーナー、そして近現代の小野田を語るにかかせない「セメント産業」について詳しく学習できる展示などが設けられています。館の運営について岡村館長にお話をうかがいました。

（質問）大きな資料館ですね！

岡村「設立時に小野田セメント株式会社（※太平洋セメント株式会社：現在）より多額の寄付金を頂いたため、このように立派な館をつくることができました。」

（質問）展示の一番の特色は何でしょうか？

岡村「小野田は地場産業で発展してきた町です。展示も、古墳時代の須恵器生産（松山窯）から近世の窯業（巨の皿山）、石炭の産出（有帆炭）、セメント産業などに力点を置いています。」

（質問）2階では、須恵器窯出土品がオープン展示されていますね？

岡村「ご自由にお触り下さい。資料に『直に触れる』ことで、地域の歴史を学んだことが一生の思い出になれば、と考えています。」

山陽小野田市の皆さん、素晴らしい資料館をお持ちですね！

（横山成己）



山陽小野田市歴史民俗資料館外観



館の説明をしていただいた岡村館長

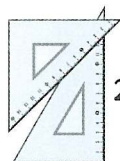
お問い合わせ先

山陽小野田市歴史民俗資料館

〒756-0802

山陽小野田市栄町9番21号

Tel 0836-83-5600



2007年春 埋蔵文化財資料館の活動

4月 4/2（月）山口大学埋蔵文化財資料館創立30周年記念特別展

『稲作到来～弥生人つくったとったたべた～』オープン。

（※開催期間：平成19年6月1日まで）

第5回大学情報機構埋蔵文化財特別展『あしもの遺跡シリーズ3 白石遺跡』オープン。

（於：山口大学総合図書館1階 開催期間：平成19年6月15日まで）

5月 5/2（火）山口市立平川小学校にて6年生を対象に出張授業を実施。

5/17（木）山口市立小郡小学校6年生による資料館集団見学。

5/26（土）第7回公開授業『古代人の知恵に挑戦！～古代のお米をつくってみよう2～』

第1回授業（田植え）開催（受講者20名）。

6月 6/13（水）教育学部附属山口中学校（白石遺跡）にて予備発掘調査を開始。

6/15（金）吉田構内経済学部南西側道路（吉田遺跡）にて立会調査を実施。

6/18（月）第6回大学情報機構埋蔵文化財特別展

『山口県遺跡めぐりシリーズ3 須佐唐津古窯跡』オープン。

（於：山口大学総合図書館1階 開催期間：平成19年10月26日まで）

6/25（月）埋蔵文化財資料館平成19年度常設展『山口大学 学宝展』オープン。

（※開催期間：平成19年10月12日まで）

6/25（月）吉田構内東亜経済研究所（吉田遺跡）にて立会調査を実施。



『稲作到来～弥生人つくったとったたべた～』
展示風景



第7回公開授業「田植え」の様子

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信

第9号

『てらこや埋文』2007 夏

編集・発行

山口大学埋蔵文化財資料館

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1

Tel/Fax 083-933-5035

E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2007.6.29.